

フリードリヒ・ニーチェの詳細

項目	データ
登場人物	フリードリヒ・ニーチェ
生誕	1844
死没	1900
概要	現代の京都に突如として表れた、自称哲学者の美青年。その正体は、19世紀ドイツを代表する哲学者ニーチェだった!?かつて「神は死んだ」と宣言しキリスト教的道徳を打ち壊そうとした過激な思想家としての面影を残しつつ、現代の日本のサブカルチャーに異常なまでの適応力をみせる。特にソシヤゲを嗜んでおり哲学を説く際に例として挙げるほどである。主人公のアリサに対し、「末人」に陥るのではなく「超人」を目指せと説き、彼女が抱える悩みや閉塞感を、アクロバティックな論理と情熱的な言葉で解体していく。ちなみにニーチェは数々の偉業を達成しているが、女性にフラれ狂って死んだ。
著作物	『悲劇の誕生』『反時代的考察』『人間的な、あまりに人間的な』『曙光』『悦ばしき知識』『ツアラトウストラはこう言った』『善悪の彼岸』『道徳の系譜』『ワーグナーの場合』『偶像の黄昏』『アンチクリスト』『ニーチェ対ワーグナー』『この人を見よ』
登場話	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,14,15,16,17

主な思想

超人

既存の道徳を捨て去り、自らの意志で新たな価値を創造できる存在。ニヒリズムを克服した先にある理想像。超人になるためには3段階ある。1段階目がラクダ。様々な困難を受け入れ、耐え忍んで学習し、吸収していく段階である。2段階目がライオン。批判することや破壊することを恐れず疑問を抱く段階である。そして3段階目で子ども、自ら創造し自分自身の考えを組みたてる。

蓄群道徳

多数派の意見を良いものだと思い込むこと